

財務畑出身の社長は創業65年で初めて。「自律した専門家集団を形成し、進化させ、次世代に送っていきたい」と語り、生産力の増強とともに「永続企業」としてのチャンスを増大させるための新たなコア事業の獲得に意欲を見せる。

——事業環境をどう見ている。

「大手企業と地場企業で二極化の傾向があり、大手企業は仕事が目いっぱい、状況ではないか。震災復興関連の需要は落ち着き、国土強靱(きょうじん)化をはじめとする本来の需要にシフトしてきているように感じる。14年6月期から6カ年の第3次長期プランでは前半3カ年を財政出動重

こうじ 宏治氏

ふくしま 福山コンサルタント 福島

新たなコア事業獲得へ意欲

点期、後半3カ年を財政出動安定期と想定している。このため、財政出動が落ち

コア事業を獲得する必要がありと考えている」

「7月に行った組織再編では、地域別、技術分野別のマネジメントを統合し、

適用を進め、鉄道は新幹線やリニア新幹線プロジェクトに力を入れたい。この3分野は輸出モデルにもなり得る」と思っている」



新社長

82年北九州大商学部卒、83年福山コンサルタント入社。07年執行役員企画室長兼監査室長、09年取締役経営企画室長、11年常務経営企画室長、13年常務戦略企画室長。宮崎県出身、55歳。趣味は釣り、週3回程度のスイミング。好きな言葉は「行蔵は我に存す」。

「8月末現在の手持ち業務量は昨年の同じ時期に比べ16%増えている。喫緊の課題はこれらの業務量の増大に対応するための生産力の増強だ。再委託が可能な業務は外注を進めている。社内には、発注者からの業務評定点が高く、労働時間が短く、利益率も高いという優れたパフォーマンスを行っているグループがあり、その取り組みを共有する『ベンチワーク研修会』

「地域強靱化、モニタリング、鉄道の3分野だ。地域強靱化では南海トラフ巨大地震の発生を視野に環境防災(徳島市)を5月に完全子会社化した。東日本大震災の経験を生かし、予防保全や減災について提案したい。モニタリングでは、橋梁点検や土砂崩壊監視への無線センサーシステムの適用を進め、鉄道は新幹線やリニア新幹線プロジェクトに力を入れたい。この3分野は輸出モデルにもなり得る」と思っている」

(9月26日就任)